

6

Jun

6月に予定されているセンターのイベント情報や、  
 其他のお知らせについてご案内します。

## 6月の自然講座



## 『こもりのうんち』

- 日 時：2014年6月15日(日)10:00~12:00
- 場 所：漫湖水鳥・湿地センター 研修室
- 定 員：30名
- 対 象：小学生以上(※低学年は保護者同伴)
- 参加費：¥100(※保険料として)
- 持ち物：帽子、筆記用具、飲み物

## 『昆虫標本堂』

- 日 時：2014年6月28日(土)11:00~16:00(※昼食時間あり)
- 場 所：漫湖水鳥・湿地センター 研修室
- 定 員：20名
- 対 象：小学生以上(※低学年は保護者同伴)
- 参加費：¥600(※材料費と保険料を含む)
- 持ち物：虫アミ、虫カゴ(※お持ちの方)、帽子、タオル、筆記用具、お弁当、飲み物(※当日は道具の貸し出しあり)

[お問い合わせ・お申し込み] 漫湖水鳥・湿地センター ☎098-840-5121

Topic:

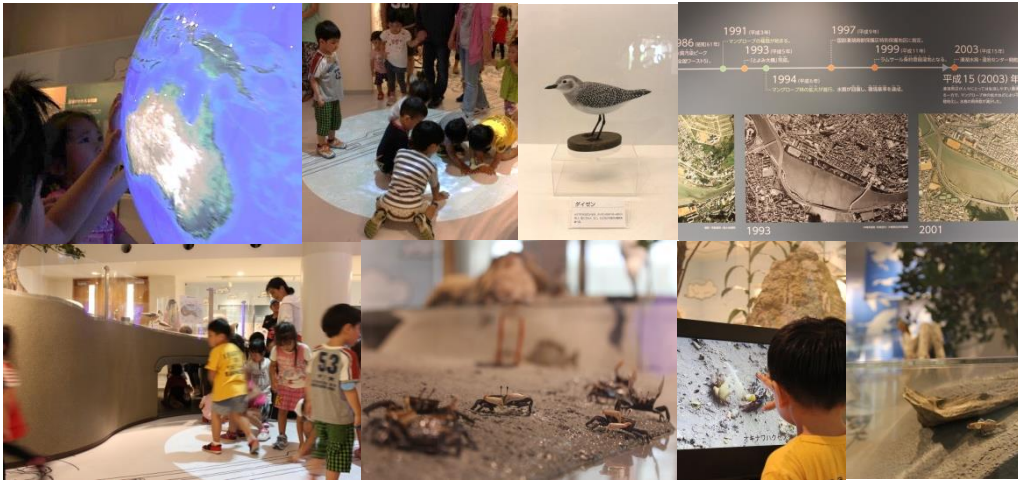
いきものファインダー  
 漫湖の風景 26



## 春の風物詩

4月、今年も漫湖に短い春がやってきた。センター前の広場は、もうすっかりシロツメクサ畑だ。その広場で近所の男の子たちが、バッタやチョウを追いかけて回し虫捕りに夢中になっている。女の子たちはミツバチに交じてシロツメクサの花を集め、ステキな王冠や首飾りを作っている。

毎年この時期になると、机に向かって仕事をしていても、窓の外からは鳥たちの賑やかなさえずりが聞こえてくる。仕事の傍ら、パッと視線を外に向けてみると、すでに愛を確かめ合い、産まれたばかりの我が子を育てるため、せせせとエサをとる親鳥の姿が目につく。このイソヒヨドリがくわえたイモムシの数を見ていると、エサをねだるヒナたちの懸命な鳴き声が聞こえてきそうである。子を育てる親の愛情は鳥も一緒なのだ。



## 新しくなった展示室をのぞいてみよう!!

去る3月30日にリニューアルオープンを迎えた漫湖水鳥・湿地センター。早いもので、あっという間に一か月が経ちました。おかげさまで、来館者の皆様にご好評を頂いております。そこで今月は、新しくなったセンターのなかから1Fの展示室を皆様にご紹介したいと思います。

展示室のリニューアルにあたっては、古くなった情報の更新に伴い、保全事業でマングローブを伐採するに至った経緯などを、歴史的背景も交えながら正しく理解してもらうことを大きな柱としました。その上で、現在も漫湖が直面している様々な問題についてクイズ形式で学べる展示や、なぜ漫湖の環境を守らなくてはいけないのか?という問いに、巨大な地球儀を使って考える展示などを、分かりやすい解説文と来館者へ向けたメッセージを添えて配置しました。

また、漫湖の環境を再現したジオラマは、干潮と満潮による環境の違いを同時に見比べられるようなつくりを新しく採用し、子どもたちが干潟の中に潜ったり、水面に顔を出したりできるような体験型のジオラマに生まれかわりました。さらに、配置する生物の一つ一つに動きやストーリーを持たせ、来館者が自ら発見する楽しさを味わえるように工夫を凝らしました。その他にも、漫湖の干潟と水鳥の採餌シーンをCGで再現し床面に投影した展示や、クロツラヘラサギやトウネンなど5種類の鳥の鳴き声が楽しめる展示などが子どもたちを喜ばせています。

このように、体験型の展示が増えたことで、今までより少しだけ来館者が主体的に漫湖と向き合えるようになった気がします。実際には、まだまだ試行錯誤のところも多々ありますが、生まれかわった展示を効果的に活用し、これからも漫湖の保全とワイズユースについて、たくさんの方たちと一緒に考えていきたいと思います。

■ 2014.4/1 — 2014.4/30

{ 漫湖で確認された野鳥 …………… 計 39 種 }

## 漫湖 寄鳥見鳥

## 漫湖で確認された鳥類一覧

4/13



## 今年も、まだいます。

4月も半ばを過ぎたころになると、冬を越した水鳥のほとんどが繁殖の途に就く。賑やかさを失った干潟は、水鳥に関していえば、春の生き生きさとは対照的に、少しだけ寂しさが顔をのぞかせる時期に入る。そんな中、今年もまだ漫湖に残っている彼らの姿が。クロツラヘラサギだ。この日も4羽がお揃いで羽を休めていた。北へ渡るにはまだ蓄えが足りないのだろうか、エサを採る行動もまだ見られる。

ここ数年、漫湖の記録ではクロツラヘラサギの終認は5月の下旬となっているが、さて今年はいつまでその姿を見せてくれるだろうか。

- |              |               |
|--------------|---------------|
| 1. キジバト      | 26. リュウキュウツバメ |
| 2. ズアカアオバト   | 27. シロガシラ     |
| 3. アカガシラサギ   | 28. ヒヨドリ      |
| 4. アオサギ      | 29. ウグイス      |
| 5. ダイサギ      | 30. メジロ       |
| 6. チュウサギ     | 31. ムクドリ      |
| 7. コサギ       | 32. コムクドリ     |
| 8. クロツラヘラサギ  | 33. カラムクドリ    |
| 9. オオバン      | 34. シロハラ      |
| 10. ムナグロ     | 35. イソヒヨドリ    |
| 11. セイタカシギ   | 36. カワラバト※    |
| 12. タシギ      | 37. シマキンバラ※   |
| 13. チュウシャクシギ | 38.           |
| 14. アカアシシギ   | 39.           |
| 15. コアオアシシギ  | 40.           |
| 16. アオアシシギ   | 41.           |
| 17. キアシシギ    | 42.           |
| 18. イソシギ     | 43.           |
| 19. ウズラシギ    | 44.           |
| 20. ミサゴ      | 45.           |
| 21. サシバ      | 46.           |
| 22. カワセミ     | 47.           |
| 23. ハシブトガラス  | 48.           |
| 24. シジュウカラ   | 49.           |
| 25. ツバメ      | 50. ※は外来種     |

※この観察記録は、毎月実施されている鳥獣保護区の定点カウントの記録と、センターでの観察記録を基にまとめたものです。